

令和2年度 小規模法人ネットワーク化事業（ちゅいしいじい事業）モデル社協の取り組み報告

社協名： 那覇市社会福祉協議会

担当者： 企画総務課 山城章

1 法人間連携プラットフォームの実施回数	8回
2 法人間連携プラットフォームにおける取り組み内容 ※足りない場合はセルを追加してください	
1 回目	第1回連絡会 本会のCSW等の関わる福祉施設（公益的な取り組みの実施施設）18法人を構成施設として案内し、令和2年度小規模法人ネットワーク化事業の趣旨説明し、今年度の取組内容を協議し、施設長等から意見交換を行う。◎法人と社協のつながりを目的に開催 コロナの影響で書面による承認書
2 回目	第2回連絡会 首里地区開催 県社協の策定した社会福祉法人等の公益的な取り組み指針や、法的根拠、意義について県社協担当者から説明し、各法人で地域貢献活動についてやっていることや、やってみたいことなどの意見交換を行った。今後の取組を確認した。
3 回目	第3回連絡会 真和志地区開催 県社協の策定した社会福祉法人等の公益的な取り組み指針や、法的根拠、意義について県社協担当者から説明し、各法人で地域貢献活動についてやっていることや、やってみたいことなどの意見交換を行った。今後の取組を確認した。
4 回目	第4回連絡会 本庁地区開催 県社協の策定した社会福祉法人等の公益的な取り組み指針や、法的根拠、意義について県社協担当者から説明し、各法人で地域貢献活動についてやっていることや、やってみたいことなどの意見交換を行った。今後の取組を確認した。
5 回目	第5回連絡会 首里地区開催 地域福祉計画と地域福祉活動計画による那覇市の地域福祉課題を共有し施設で何ができるかを協議した。
6 回目	第6回連絡会 真和志地区 地域福祉計画と地域福祉活動計画による那覇市の地域福祉課題を共有し施設で何ができるかを協議した。
7 回目	第7回連絡会 本庁地区 地域福祉計画と地位福祉活動計画による那覇市の地域福祉課題を共有し施設で何ができるかを協議した。
8 回目	第8回連絡会 合同 今年度の振り返り、次年度計画を承認した。
3 複数法人の連携による地域貢献のための協働事業の内容	
<p>（取り組み内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の肝となる協働事業については、1年目として、17法人の意見交換を通して、法人でやっていることと、やってみたいことを整理し、各法人の分野別の強みを活かした取り組みの活動イメージを7分野に見立ててアンケート調査を実施した。その結果を踏まえて、2021年度より、複数法人の連携による地域貢献のための協働事業の試行的取り組み案を協議承認を得た。</li> <li>・生活困窮世帯の困りごとが深刻化しており、食糧支援物資や支援金の不足に、今をどう対処するかが迫られています。次年度協議する活動分類の食糧支援の「集める」という取り組みであれば、まだまだ続くことが予測されるコロナ過の活動制限がある中でも、可能な取り組みと判断し年度末に400有余の法人の地域貢献活動としてフードドライブ運動を実施します。寄付金活動は次年度より検討いたします、</li> </ul>	
<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①1年目の成果目標の法人と社協が繋がることを目標に達成できた。</li> <li>②連絡会の意見交換を含め、アンケート調査の実施により17法人の強みを活かす活動を把握することが出来た。</li> <li>③コロナ過の中でも可能な取り組みとしての協働事業として18法人をプロジェクトチームとして400有余の法人に協力を呼びかけることで、食糧支援の集めるという行為を通して、支援の仕組みづくりの契機となった。</li> </ol>	
<p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①コロナ渦の中においては、積極的な取り組みには至らず、活動が制限または中止することも視野に入れないと行けない事業所も多く存在し、今後の試行的取り組みの際には留意する必要がある。</li> <li>②7つの活動分類の相談と食料、移動支援の部会を活動を通して、協議の場を設ける必要がある。</li> </ol>	

4 福祉・介護人材の確保・定着のための取り組み内容
<p>(取り組み内容)</p> <p>①明日の未来を担う子どもたちへ向けて小学校区単位で行われる福祉教育・福祉体験活動を法人間の施設講師を派遣し、人材育成の契機とする。(小学校区単位で2か所)</p> <p>ア. 一般社団法人ハーネス本永亜希子さん 那覇中学校  イ. 安謝複合施設喜瀬課長 安謝小学校</p>
<p>(取り組み内容)</p> <p>②福祉を専攻する学生へ相談援助実習の中において、地域福祉の圏域に、より身近な小学校区を選定し、その地域の福祉の要となる民生委員、自治会長、福祉施設等から聞き取り調査を行うことで、地域の実情を詳らかにし、地域課題を把握する機会を図ることで、地域福祉推進の実践活動を体験させることができた。地域モデル ア、安謝小校区・イ、石嶺小校区、城北小校区・ウ識名、松川小校区に2名×3組=6名の学生が学んだ。</p>
<p>(成果) ①については、校区単位にある法人に依頼することで、身近な施設の存在を子どもたちに知ってもらうことが出来た。  ②については、定例化している学生の実習課題として、地域福祉推進の取組を体感し良き学びとなった。</p>
<p>(課題) ①②とも、コロナ渦の中、感染対策に留意し取り組む必要があった。今後も継続して感染対策に留意していく。</p>
5 その他本事業に関連する取り組み(自由記述)
<p>●実態把握  沖縄県内社会福祉法人の地域における公益的な取り組み指針に基づく、推進計画が令和元年度で終了しており、令和2年度以降の推進計画及び単年度計画の策定がちよいしいじい(小規模法人ネットワーク化事業)の目的でもあり、17法人に対して指針及び推進計画案に対するアンケート調査を実施した。  その結果をもとに実施計画を策定し2月の連絡会で協議した。  次年度は、400有余の法人にアンケートと具体的な活動を示し活動の趣旨に賛同した法人への入会申し込みを推進する。</p>
<p>●広報活動  3) 市内の福祉施設等の先駆的事例等を広く関係者に発信し、公益的な取り組み法人のネットワークの構築により、社会的ニーズの解決に結びつけられるよう機運を高めた。  ①公益的な取り組みを広報誌・パンフレット等で広報し、公益的取り組みの広報強化を図った。  ②☑は地域貢献だよりを9月より毎月6千部7回発行した。  構成はA4の両面。表面は、連絡会に関する報告とい、裏面は17法人の中から、地域貢献活動の紹介コーナーとし、活動のイメージを掴んでもらう紙面とした。</p>